

▼こんなトークで対応しよう



# こんなトークで**誤解**を解こう! 若年層のお客様からの こんな質問にはこう答えよう

ここでは、若年層のお客様にみられる誤解や注意すべき質問を挙げ、どう答えていけばよいかについてマンガを交えて解説します。

①～⑥ ノット・アドバイザーズ 代表 上村 武雄  
⑦～⑩ CFP® 認定者 1級 FP 技能士 野村 修由

## 誤解 1

### 株とかの運用経験がなくても 投信で運用すれば儲かるんでしょ?

**貯** 金箱の中にお金を入れ、数カ月後にフタを開けるとお金が増えている――、投資信託での資産運用にそのようなイメージをもつお客様も少なくありません。このようなお客様に運用提案を行うには、リスクはもろろんのこと、株式とは何かから説明する必要があります。金融資産には様々な種類がありますが、資産運用の中心は株式です。そして運用の入口として購入する投資信託とは、株式の銘柄選択などの運用を投資のプロに任せるツールです。

あなたが株式を購入する（投資する）ということは、あなたがその企業のオーナーになることと同じです。ケーキを販売する会社の株式を購入するということは、例えば、あなたの友人（社長）がケーキ屋をやりたいので、あなたが、店を買ったりケーキの材料を仕入れたりするお金を出す（株式を買う）ということなのです。

実際に、ケーキ屋を始めるときにお金を出すのではなく、売っているケーキ屋の権利を買ったり、売ったりするイメージです。これが株式の売買、いわゆる株式投資の基本です。株式市場とは、そのような企業（の一部分）が株式という形で売買されているメルカリのようなプラットフォームです。

**投信ではお金を出し合い  
判断をプロに任せる**

この感覚で今より業績が良くなりそうな企業を見つけ出し、その株式を購入するわけです。ただ、株式の購入には、まとまった資金が必要です。また、今より業績が良くなりそうな企業を見つけ出すのも難しい判断が必要です。そこで、みんなでお

金を出し合い、さらに良い企業かどうかの判断をその道のプロ（ファンドマネジャー）に任せるのが投資信託です。

しかし、プロでも未来はわかりません。投資信託（中身は株式等）を購入しても、必ず儲かるわけではなく、得をすることも損をすることもあります。

企業は生き物と同じです。また、その企業を見ている人たちも、その企業に対する考えが毎日変わります。したがって、企業の価値を示す株式の価格は常に上下しています。1日に1回しか価格が変わらない投資信託の単価（基準価額）も、それぞれ毎日変動しています。

例えば、日経平均株価に連動する架空の投資信託の値動きを見てみましょう（ここでは便宜的に実際の日経平均株価を基準価額として使用する）。

2021年5月。最初の営業日である5月6日に、この投資信託を2万9331円分購入し

たとします。5月10日には価格が2万9518円まで上昇しているのですが、この時点で売却すれば187円の利益が得られたこととなります。

ところが、翌5月11日には価格が2万8608円と、1日で910円下落しています。このように上下に動く値動きをリスクと呼びます。

この投資信託を、1年後の22年5月2日に売却し、そこで儲かっていればリターンとなります。しかし、実際には価格が2万6818円になっていたので2513円の損失となります。

投資した元本が上下に変動するリスクを受け入れることで、投資からリターンを得られる可能性が生まれます。投資元本が上下に変動する以上は、上に振られてリターンを得られる可能性がある一方、下に振られて損失を被ることもあります。したがって、投資信託で運用すれば必ず儲かるわけではありません。

